

Course number	U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー：アフリカ地域研究のためのフィールドワーク入門 ILAS Seminar :Introduction to field work for African Area Studies	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Graduate School of Asian and African Area Studies Associate Professor,KANEKO MORIE		
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences	Number of credits	2	Hours	30
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2024・Intensive, First semester	Quota (Freshman)	8 (8)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors	Days and periods	Intensive
Classroom	Room 504, the common building (Faculty of Medicine/Pharmaceutical Science Campus/University Hospital Campus)			Language of instruction	Japanese
Keyword	フィールド実習 / 文化人類学 / 動植物観察 / 琵琶湖周辺の農漁村 / 在来知と開発				
[Overview and purpose of the course]					
<p>このセミナーでは、アフリカの人びとが日々自然環境と関わるなかで培ってきた在来知（Local Knowledge）に注目し、座学や実習などを介してフィールドワークという手法を経験的に理解することを目的としている。その手法を実際に理解するために、座学を受講したうえで、琵琶湖周辺にある漁村（沖島での実習を予定）を訪問し、人びとと湖との関わりについてインタビューや参与観察を中心としたフィールド演習を実施する。フィールドワークで得られた情報など収集したデータを整理したうえで、受講者がフィールドワークの成果を発表する。セミナー終了時には、受講者がアフリカにおいて具体的にフィールドワークをおこなうイメージをもつと同時に、フィールドワークを介して私たちが生きる世界を理解し、人びとの日常生活にもとづいてグローバルに展開する課題に対する姿勢や見方を確立することが最終的なねらいである。</p>					
[Course objectives]					
<p>このセミナーを履修することによって以下の三つの目標に到達することを目指す。</p> <p>（１）現代アフリカに暮らす人びとがさまざまな環境との関わり方を基盤にして生成・変化・創造させてきた経験的な知の実践に注目し、それを概念化した「アフリカ在来知」について理解することができるようになる。</p> <p>（２）琵琶湖周辺のヒトと自然に関わる生態環境を観察して記録するための手法をみにつけることができるようになる。</p> <p>（３）漁労活動や副業的な活動なども含めて湖周辺の資源利用の方法やそのための道具の製作技法や資源の加工・生産方法に関する聞き取りや参与観察の手法をみにつけることができるようになる。</p>					
[Course schedule and contents]					
<p>上記の目標を達成するために、以下のような内容でセミナーをすすめる。</p> <p>受講生確定後に、PandA等を活用して資料を共有する。</p> <p>4/15（月） 座学１ イントロダクション：アフリカ在来知</p> <p>5/27（月） 座学２ フィールドワークの手法</p> <p>6/1（土）フィールド演習１：琵琶湖周辺漁村訪問</p>					
Continue to ILASセミナー：アフリカ地域研究のためのフィールドワーク入門(2)					

ILASセミナー：アフリカ地域研究のためのフィールドワーク入門(2)

6/2(日) フィールド演習2：滋賀県琵琶湖周辺漁村訪問・資料館

6/3(月) 座学3：フィールド演習のまとめ

6/10(月) 座学4：成果発表

[Course requirements]

2回生以上の受講希望者は、1回生時にフィールドワークに関連する講義、演習(ゼミ)等を受講していることが望ましい。

[Evaluation methods and policy]

レポート、座学・フィールド実習への積極的な姿勢、セミナーでの発表をふまえて総合的に評価する。詳細は、授業中に説明する。

[Textbooks]

Instructed during class

[References, etc.]

(References, etc.)

松田素二(編)『アフリカを学ぶ人のために』(世界思想社)ISBN:4790717828

金子守恵『土器づくりの民族誌』(昭和堂)ISBN:4812211263

日本アフリカ学会『アフリカ学辞典』(昭和堂)ISBN:4812214157

(Related URL)

<https://www.africa.asafas.kyoto-u.ac.jp/>(大学院アジア・アフリカ地域研究研究科アフリカ地域研究専攻)

<http://www.africa.kyoto-u.ac.jp/>(アフリカ地域研究資料センター)

[Study outside of class (preparation and review)]

京都大学では、アフリカ各地をフィールドにした研究が多数おこなわれています。このセミナーの受講者には、予習と復習の意味をこめて、そのような研究の成果が発表される研究会や公開講座に積極的に参加することをすすめます。具体的な研究会などの日程は授業中に案内します。

このセミナーの修了者には、希望すれば、担当教員がエチオピアにおいて実施している実践的地域研究プロジェクトにインターンとして参加する可能性がひらかれています。

[Other information (office hours, etc.)]

- ・学外においてフィールド実習を1泊2日の予定で実施します。そのため、
- 学生教育研究災害傷害保険には必ず加入して下さい。
- 交通費および宿泊費の自己負担があります(10000円程度を予定)。

・座学では議論や発表に時間をかけて取り組んでもらうため、また野外での演習では個別に指導を受けながら安全にフィールドワークに取り組んでもらうため、受講定員を8人に設定しています。